

平成 21 年度 近江八幡市 21 世紀環境共生型住宅普及活動事業 実施設計レビュー 議事概要

平成 21 年 10 月 07 日 9:30~11:30 近江八幡市役所 第 1 委員会室

出席者 環境省専門家 滋賀県立大学環境科学部教授 松岡拓公雄

地域窓口担当者 JIA 環境行動ラボ 林 昭男

株式会社 片淵建築事務所 片淵 良、水谷恵美

近江八幡市 都市産業部建築課 園田 毅

近江八幡市 協働政策部広報企画課 福井一暁

NPO エコ村ネットワ-キング 理事長 仁連孝昭、副理事長 鵜飼 修

事業運営事務局 飯田 航、齊藤千恵、大西恒平

1. 基本設計レビューで指摘された点の確認（黒字が前回の指摘事項、青字が設計者による検討結果）

- ・ 室外機などの機械設備を予め、景観上配慮して設置すること。（松岡氏）
ルーバー等で室外機を隠す方法で対応。
- ・ 当初のプロポーザル提案にはないが、近江八幡のエコハウスなので葦の利用を検討していただき、葦葺屋根を検討していただいている。（仁連氏）
採用に向け、予算・スケジュールを検討中
- ・ モデルルームとして利用をするなら、家事動線を再検討し女性にも魅力的なプランに。（鵜飼氏）
対面キッチンを維持し、天板の幅を広げる。キッチンから洗面への動線はなし。南側に出られるので台所西側の勝手口も無しとする。
- ・ 小舟木エコ村風景づくり協定を 100% 実行していることが必要。（林氏）
主要項目は問題なく対応している。
- ・ 葦葺については、普及性を考えると違和感がある。実行するのであれば、徹底的なシミュレーションをしてはどうか。（林氏）
シミュレーション方法を大学と検討する。
- ・ 明るさを確認して、できるだけ照明が必要ないようにすること。（鵜飼氏）
二階の南面窓をできるだけ大きくし、採光を確保する。
- ・ 構造材や構造用合板には県産材や国産材を積極的に活用してほしい。（林氏）
構造材は採用の方向で検討している。県産材で合板を製作することもできるが、スケジュールに乗るかどうか検討中。
- ・ 湖国エネルギー創造住宅 なのでエネルギーを創造した方が良い。太陽光発電等、容量をさらに検討してほしい。（林氏）
クーラーを使わない住宅という想定なら、3kW も載れば十分だろう。
費用対効果の面から、コンディショナーの出力を考慮すると、3.86kW が効率的。
もしも IH を使うなら、3.86kW では十分とは言えないだろう。
電力使用量・予算・搭載可能面積を総合的に判断して可能な限りの最大面積を搭載する。

- ・ 通り土間に面した部分は、ガラス面積が大きく熱損失も大きい。断熱性能は十分に確保するように計画してほしい（事務局）

現在、建物の Q 値は計算中。東屋を計算に入れるものと入れないもの、二つを準備する予定。

- ・ 東屋の東側を土壁に。版築でつくったらどうか。（仁連氏）
プランに反映させている。コスト、スケジュールが実現可能かどうか検討中。
- ・ 琵琶湖に面していると風が強いので、冬場は土間の風除けの配慮が必要かもしれない。（鵜飼氏）
扉を設置し、通り土間を仕切れるようにして対応。
- ・ 近江八幡といえば八幡瓦。近江八幡らしさをプランに取り入れてはどうか（傍聴者 A 様）
太陽光パネル等を設置するため、デザインのガルバリウムを利用する。
- ・ 春分・秋分の方向に建物を振って配置してはどうか。（傍聴者 A 様）
日照条件や風、周辺の景観等を総合的に検討した結果（南東・北西からの風をとらえ、周辺道路や公園等の位置関係と人の動線を考慮）、敷地境界と平行に配置する現行のままのプランとした。
- ・ プランの中にある設備一式を取り入れることで、従来の住宅と比べて、CO₂ がどの程度削減されるのかを定義することが重要（傍聴者 A 様）
CO₂ 削減予測量は計算中。
- ・ エコハウスへの宿泊は難しいという話があったが、宿泊ができないとモデルの説得力が生まれないのではないか（傍聴者 B 様）
宿泊は用途上、難しい。

2. 9 月 28 日の全国連絡会（東京）での全国審査委員レビューでの指摘事項とその対応（青字が設計者による検討結果）

- ・ 設備スペースの詳細はどうか？ ダクトを通した方が効率がよいかもしれない。
ダクトにはそれぞれの専用の配管をおこなうことが合理的と判断。
- ・ シンプルな平面計画だが、設備コア 8 箇所は構造的にも機能しているのか？
一部が耐力壁を兼ねている。
- ・ 二階の窓が小さいので、閉鎖的な空間になってしまっている。南側の風景が見えるようにするなど、開口部を工夫した方がよい。
二階の南面の窓を、できるだけ大きくする。
- ・ 土間と書かれている部分が、夏季とても熱くなるだろう。遮熱は樹木だけでは不十分。
 - 庇をつけたり日射を遮ったりしないと、地熱利用システムも焼け石に水になってしまう。
 - 土間や扉などに直射日光が当たると、40 度以上になる。これでは、パネルヒーターがぶら下がっているのと同じ。
土間の上の庇を、60cm 程度のばす。植栽を増やす。

3. 実施設計レビュー内容

- ・ 夏の夕方の散水は気温を下げるのに効果があるため、庭の 3~4 箇所に散水栓を設置したほうがよい。
- ・ 夜間に通風がとれるように、足元の小窓など開口部の設置を検討する。

FIX 格子を設置してはどうか。

FIX 格子は通常は邪魔ではないか？可動式にするなど、日常の使い勝手について検討継続する。

- ・ 地熱利用や空気を循環させるためのポンプ設備の電気使用量を確認する。
- ・ 周辺に木が少ないので、外構に大きな木を植えてインパクトがあるように。
- ・ 東屋の収納の壁（引き戸）について
構造上必要になると思う。検討結果を報告する。
- ・ 東屋の雨戸の仕舞いについて検討。東屋の外周は味のある雨戸にしてほしい。
- ・ 今回の東屋のコンセプトもふまえ、Q 値・C 値の計算は通り土間から西側の部分で算出する。
- ・ まちの防犯性の向上に資する防犯カメラなどの設備機器の設置を検討してほしい
- ・ 大掛かりになっている設備の簡易化を検討（できれば冷房設備の要らない家）してほしい。
- ・ 予算を絞り込む必要がある場合に、予算削減方法の候補案

地中熱利用設備、地下水熱利用設備

集熱チャンバー

エアコンの設置台数

葎葎き

LED 照明...できるだけ残したい。

壁面緑化ヨシパネル...当初より滋賀らしい素材として提案しているので残したい。

2 階プランの変更（北側を半間小さくする）...ただし床面積が小さくなると Q 値も変わる。

以上